

宗像市読書のまちづくり推進計画後期計画（令和2年度～令和5年度）の評価

令和6年6月

（注）表は、後期計画期間の令和2年から令和5年度の実績と目標値の基準となる平成30年度の実績

基本方針Ⅰ 本は人生のパートナー

ライフステージに応じた読書活動の推進と環境づくり

（1）乳幼児期の取組み

乳幼児期から絵本を身近なものと感じてもらうため、ブックスタートとおはなし会を推進した。4か月健診でブックスタートを実施することにより、令和5年度はほぼ全員（96％）の対象者に絵本と出合う機会を提供できた。ブックスタートを機にえほんのへやを利用する市民も多く、絵本に親しむ有効な機会となっている。乳幼児を対象に開催したおはなし会は、コロナ禍や幼児教育施設の入所の早期化が影響し、コロナ禍前の参加人数には回復していない。一方で、令和5年度の来館者アンケートに別の曜日や場所でのおはなし会開催を望む声があがっている。

<おはなし会参加人数>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
参加人数	4,039人	4,000人	207人	238人	604人	869人

家庭での読書活動を支援するため、令和3年度から久原分室の読書相談員を常駐とし、利用者からの相談に応じた。また、よく読まれた絵本の買替や新しい絵本の購入により、絵本の蔵書更新に取り組んだ。さらに0歳から2歳まで年齢ごとのおすすめ絵本リストを作成し、市民図書館や子育て支援センター等に設置し、SNSで発信した。令和5年度の絵本貸出冊数は、コロナ禍前の平成30年度と比較して増加した。

<絵本貸出冊数>

年度	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	106,172冊	80,041冊	95,508冊	100,550冊	107,610冊

保育所・幼稚園・認定こども園での読書活動を支援するため、園長会でおすすめ絵本リストを配布し、えほんセット等の貸出を行った。幼稚園教諭や保育士等を対象とした絵本に関する研修会は、市子ども育成課が幼児教育研修会で実施。

【今後の課題】

- 乳幼児期の子どもの心と言葉を育てるため、絵本を身近に感じるための取組みが必要である
- 乳幼児の読書への興味関心を高めるため、多くの時間を過ごす幼児教育施設と連携し切れ目のない支援をする必要がある

（2）小・中学生期の取組み

児童生徒の読書習慣を形成するため、小中学校での朝読・家読を推進し、読書推進ボランティアが17校で活動している。また、小学生・中学生向けおすすめ本リストを作成し、学校で本を展示、家庭へリストを配布する等、子どもたちの読書活動の手がかりとした。こどもの読書週間や夏休み、読書月間の時期に、市民図書館で子どもたちを対象としたイベントやおすすめ本の展示を行い、図書館だよりや市SNSでの周知に取り組んだ。市民図書館と学校図書館における児童生徒の貸出冊数は以前より減少しているが、読書が好きな児童生徒の割合は増えている。

<市民図書館貸出冊数>

年度		平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	小学生	63,094 冊	37,237 冊	51,738 冊	49,577 冊	48,485 冊
	中学生	8,654 冊	6,115 冊	9,536 冊	8,315 冊	8,137 冊

<学校図書館貸出冊数>

年度		平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	小学生	471,194 冊	480,615 冊	460,200 冊	382,557 冊	386,654 冊
	中学生	33,536 冊	26,693 冊	28,192 冊	27,393 冊	25,046 冊

<読書が好きな児童生徒の割合>

年度		平成26年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
割合	小学生	73%	80%	83%	86%	81%	85%
	中学生		80%	69%	74%	72%	72%

【今後の課題】

- ▶小・中学生期の児童生徒が言語力を身につけ、豊かな心を育むための読書活動を推進するにあたり、小・中学校と連携した取組みが必要である

(3) 高校生期から大人への取組み

高校生への読書推進として、これまでの高校生向けおすすめ本リストに、新たに選定したノンフィクションとフィクションを加えて市民図書館のヤングアダルトコーナーに掲示するとともに、市内2つの高校に配布した。また、市内2つの高校と互いの蔵書や取組みについて情報交換を行った。令和5年2月に中央館2階にヤングアダルトコーナーをリニューアルし、中高生向けの新書やライトノベル等おすすめ本を集めて高校生の利用促進を図った。高校生貸出冊数は、減少傾向である。

<高校生貸出冊数>

年度	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	3,067 冊	2,598 冊	2,777 冊	2,367 冊	2,455 冊

大学生への読書推進として、市内2つの大学と相互貸借や互いのイベントの周知を行っている。令和5年度には各大学で電子図書館体験会を開催した。また、福岡教育大学ボランティアサポートシステムを活用して読書月間イベントへの学生ボランティアを募集したが、応募はなかった。大学生の市民図書館への関心は低く、貸出冊数は減少している。

<大学生貸出冊数>

年度	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	5,189 冊	4,298 冊	4,082 冊	3,986 冊	3,793 冊

市民の読書への関心を高めるため、毎月図書館だよりや市SNS等で図書館の情報を発信し、11月の読書月間に各館で様々なイベントを実施した。コロナ禍でイベント参加者数が落ち込んだ時期もあったが、令和3年度以降は徐々に回復傾向にある。令和5年度の講演会では本屋大賞を受賞した作家の講演会を行い95%の満足度を得るなど、一定の成果がみられた。

<イベント参加者数>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
参加人数	9,041 人	10,000 人	2,232 人	2,782 人	3,305 人	5,204 人

高齢者や障がいのある市民が快適に図書館を利用できるように、中央館に大活字本、LLブック、点字図書コーナーを設置し、図書館だより等で周知した。また、有料郵送サービスと心身障害者用ゆうメールサービスを開始した。大活字本は一定の利用があるが、それ以外のバリアフリー図書やバリアフリーサービスの利用は少なかった。

<年代別図書館利用カード登録率>

区分	幼児	小学生	中学生	高校生	～22歳	～30歳	～40歳	～50歳	～60歳	60歳～
割合	14%	32%	33%	16%	13%	11%	21%	21%	15%	15%

【今後の課題】

- ▶高校生・大学生には、学生に身近な高校・大学図書館と連携した取組みが必要である
- ▶読書のバリアフリーサービスの情報を必要とする市民に届けられるよう、関係機関と連携した取組みが必要である
- ▶市民の学習意欲や読書への関心を高めるため、市民のライフステージや社会の動きに応じた取組みが必要である

基本方針2 読書がつなぐ市民の輪

市民協働による読書活動の推進

(1) 地域との連携

コミセンや大学等市民により身近な施設での読書活動を推進するため、市内17の施設の図書コーナーを紹介するMAPを作成した。また、電子図書館の利用を促進するため市民図書館や大学、コミセンで電子図書館の体験会を実施した。さらに、須恵分館のある河東コミセンの文化祭で、おすすめ本の紹介を行った。令和4年度を除いてコミセンでの連携事業開催数は目標値に達しておらず、市民図書館の有効登録者の割合は、それぞれの地域で差異が出ている。

<コミュニティ・センターでの連携事業開催数>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
回数	3回	6回	0回	0回	12回	3回

<小学校区ごとの有効登録者の割合>

地区	吉武	赤間	赤間西	河東	河東西	東郷	南郷
割合	9.4%	16.5%	21.3%	13.2%	27.9%	15.8%	14.4%
地区	日の里	自由ヶ丘	玄海	玄海東	大島	地島	
割合	21.4%	20.6%	11.7%	32.2%	6.1%	4.0%	

読書の楽しさを共有するため、市民活動団体宗像ビブリオバトル倶楽部や日赤看護大学主催のビブリオバトル等を周知する等、市内での読書活動イベントの支援に取組んだ。さらに、小学生読書リーダーが作成した本の福袋を市民図書館で貸出するイベントは、年代を越えた読書活動の交流となった。11月の読書月間に市民図書館及び学校図書館で様々なイベントを実施したため、読書月間の認知度は目標値を達成した。

<読書月間の認知度>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
割合	-	20%	23%	-	21%	25%

【今後の課題】

- ▶住んでいる地域に関わらず市民が読書を楽しめるよう、関係団体と連携し読書環境の整備や市民図書館サービスの周知に取組む必要がある

(2) 関係機関や団体との連携・協力

市内における読書活動を継続して発展させるため、令和3年度に本の補修ボランティア養成講座、令和5年度にブックスタートフォローアップ講座を実施し、読書推進のために活躍できるボランティアを養成した。また、読み聞かせ活動を希望する市民に読書推進ボランティア団体を紹介し、読書推進ボランティア団体に読み聞かせを希望する施設を紹介する等、読書活動への市民の参画を支援することができた。さらに、年に1回読書推進ボランティア連絡会を開催し、団体同士の情報交換や連携を支援した。コロナ禍で減少した読書推進ボランティアの活動回数は回復傾向にある。

<読書推進ボランティア団体の活動回数>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
回数	190回	230回	26回	41回	62回	100回

<団体貸出冊数>

年度	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
冊数	6,744冊	4,239冊	3,369冊	4,641冊	4,230冊

離島の読書活動を推進するため、読書推進ボランティア団体への協働委託により、大島と地島に市民図書館コーナーを設置し、定期的に本を配送した。

<大島貸出者数>

年度	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出者数	595人	336人	261人	237人	258人

<地島貸出者数>

年度	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出者数	128人	134人	238人	86人	154人

雑誌スポンサー制度を実施し、民間事業者の支援で継続的に雑誌を購入することができている。令和5年度は、スポンサー23者、雑誌39誌の支援をいただいた。また、民間事業者と協力しての事業は、令和3年度にJAXA講演会やプラネタリウムでのおはなし会を行った。

【今後の課題】

➤読書のまちづくりを推進していくための担い手として、また市民の生活課題解決の支援として、関係機関や団体等と連携する必要がある

基本方針3 読書と学びを支える図書館

図書館サービスの充実と環境の整備

(1) 学校図書館の充実

学校図書館を活用して児童生徒が主体的に読書や調べ学習を行うことができるように、市立学校に学校司書19人を配置し、様々な読書支援、授業支援に取り組んでいる。各学校の状況に合わせた読書活動を推進することで、一人当たりの貸出冊数は全国平均よりも上回っている。

<学校図書館一人当たりの貸出冊数>

年度		平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	小学生	84冊	86冊	82冊	68冊	70冊
	中学生	13冊	10冊	10冊	10冊	10冊

学校での教育活動の中で学校図書館活用を推進するため、学校司書研修会や図書館教育担当者研修会を実施した。また、学校司書研修会で作成した授業支援シート(学年ごとの学校図書館活用例を紹介)や学校図書館を活用した授業実践の各校指導略案を全校で共有した。授業での図書館または図書資料を活用した時間は全国平均よりも低い数値となっている。

<1学級あたりの学校図書館活用時間>

年度		平成 30 年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
時間	小学校	21 時間	30 時間	23時間	23時間	21時間	21時間
	中学校	9 時間	10 時間	5時間	5時間	5時間	4時間

子どもが主体となる読書支援活動を推進するため、小学生読書リーダー・中学生読書サポーター養成講座を開催し、校内での読書推進活動を支援した。資料貸借(物流システム)を推進し、令和2年度に市民図書館と学校図書館のシステムを統合し、市民図書館や他の学校図書館所蔵本の検索、貸出手続を容易にした。また、令和5年度に市立学校に電子図書館を導入し、子どもたちがいつでも読書ができる環境を整備した。児童生徒の情報活用能力育成を目的に、調べる学習コンクールを開催した。コロナ禍を除いてコンクールの参加率は年々増加しており、全国コンクールでの入賞者も輩出する等の成果がみられた。

<調べる学習コンクール参加率>

年度		平成 30 年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
参加率	小学校	26%	35%	11%	28%	32%	32%
	中学校	30%	35%	22%	34%	41%	40%

【今後の課題】

- ▶児童生徒の読書習慣形成のため、発達段階に応じて、計画的・継続的に読書支援に取り組む必要がある
- ▶児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するため、学習センター・情報センターとしての学校図書館の活用を促進する必要がある

(2) 市民図書館サービスの充実

市民がいつでもどこでも本に親しめる環境整備の1つとして、5コミセンにサービスポイント、市内4か所に本の返却ポストを設置し、市民図書館以外で予約本の受取や本の返却を可能にした。利用者は年々増加しており、令和5年度の本の返却は67,446冊、全体での本の返却529,919冊の13%を占めた。また、利用カードの電子申請、電子図書館サービス、有料郵送サービスを導入し、来館しなくても読書ができる環境を構築、電子図書館は、令和5年度から対象者を拡大して、学校図書館にも導入し、貸出冊数が増加した。インターネットサービスを利用して本を予約する利用者も増加しており、インターネット登録率は目標値を達成した。

<市民図書館での本の貸出・返却冊数>

年度	平成 30 年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	570,474 冊	385,600 冊	475,913 冊	479,606 冊	479,842 冊
返却冊数	549,431 冊	365,865 冊	465,059 冊	463,011 冊	462,473 冊

<サービスポイントでの予約本の貸出・本の返却冊数>

年度	平成 30 年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	7,355 冊	7,995 冊	7,311 冊	8,792 冊	8,603 冊
返却冊数	70,875 冊	49,297 冊	63,091 冊	66,154 冊	67,446 冊

<電子図書館の貸出冊数>

年度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
貸出冊数	5,890冊	4,139冊	2,905冊	22,173冊

<インターネットサービス登録率>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
割合	12%	25%	-	27%	30%	32%

市民のニーズに対応するため、各館の特色を踏まえた資料を計画的に収集した。蔵書更新率は目標値に達していないが、リクエストや社会情勢に配慮しながら一定数の資料を受け入れている。深田分館では、市世界遺産課と連携して郷土史家が収集した資料約800冊を公開した。市内配本システムによる市内2大学との相互貸借や福岡県立図書館の配本システムによる県内図書館との相互貸借を行った。

<市民図書館の蔵書更新率>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
割合	5.5%	7.0%	4.6%	4.0%	5.5%	4.2%

<市民図書館の資料受入冊数>

年度	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
受入冊数	11,501冊	10,193冊	9,564冊	9,504冊	9,707冊

市民に図書館の情報を周知するため、イベントや新しい図書館サービス、館内展示等について、市の広報紙やSNS、図書館ホームページ、図書館だより等を活用して積極的に発信した。また、市民からの調べもの相談に対応するため、市民図書館や他の図書館・専門機関の所蔵資料を調査し、参考となる資料の紹介もしているが、各種図書館サービスに関する認知度は高くない。

【今後の課題】

- ▶社会の変化や市民のニーズ等を踏まえて計画的に蔵書を構築する必要がある
- ▶市民図書館の蔵書や図書館サービスについて、様々な媒体を活用して発信する必要がある

(3) 適切な図書館運営

市民のニーズに寄り添う図書館の効果的・効率的な管理や運営を目指すため、市民アンケートや来館者アンケートの結果や宗像市民図書館協議会の意見を踏まえ、館内の本の配架や掲示の改善、図書館のサービス強化に取り組んだ。全体的な利用者満足度は高い数値を維持しているが、図書館資料や開館時間充実を求める意見もある。

市民に快適な読書環境を提供するため、照明のLED化やWi-Fiの整備のほか、母体施設と連携して各館の設備改修やメンテナンスを行った。

<図書館利用者満足度>

年度	平成30年	目標値	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
割合	78%	80%	81%	-	81%	76%

【今後の課題】

- ▶社会の変化や市民のニーズ等を踏まえて図書館サービスに対する課題に取り組み、効果的・効率的な管理運営を行っていくことが必要である